

# 海気通信

Kaiki News

発行

(公財)千葉市教育振興財団  
千葉市民ギャラリー・いなげ  
〒263-0034  
千葉市稲毛区稲毛 1-8-35  
TEL: 043-248-8723  
FAX: 043-242-0729  
http://business4.plala.or.jp/g-inage/

4号

2014/4/1

## 旧神谷伝兵衛稲毛別荘

## 設計者はだれ?

大正時代、こんなにおしゃれな洋館を設計したのは？  
設計者の資料は伝わっていないけれど、すごい建築家だったのでは？

ところで洋館の「洋館らしさ」って、どこで判断するのでしょうか。つまり洋館ってなんでしょう？

### アーチと円柱って洋館ぽい？



神谷別荘には、正面一階に5連のアーチを連ねたアーケードがありま  
す。なんて洋館ぽい！  
アーチは、くさび形の石を一つ一つ積み上げ、最後に要の石をそっとはめて、完成するギリシャ時代に発展した、これぞ西洋建築の粹という技法です。神谷別荘のアーチは、コンクリート造りなので、石を積んでいくよりは簡単にできたと思います。

このアーチを支える4本の円柱も、洋館らしいですね。西洋の建築は、円柱のデザインを大切にします。特に柱の頭の部分の飾りをキャピタルと言って、このデザインが特に重視されます。ギリシャでは次の三つの形が基本です。

- ①単純なリング状がドリス式
- ②渦巻き型が横に並ぶのがイオニア式
- ③大アザミの葉の飾りがコリント式



ドリス式



トスカナ式



イオニア式



コリント式

別荘のキャピタルは、ドリス式を少し単純にしたトスカナ式に似たもので、品がありますね。  
なお、柱の材料も石ではなく、ここでも鉄筋コンクリートが使われています。

### ベランダだって洋館らしい？

ベランダは西洋の建築家が南アジアの建築に出会ってできたアジア生まれの建築様式です。  
グラバー邸をはじめ、西洋人が住み始めた長崎や横浜の洋館には大抵ベランダがついていました。  
神谷伝兵衛さんも横浜のフランス人フレツレさんのもとで働いていた頃、洋館のベランダでワインなど嗜む西洋人の姿を見ていたのかもしれない。あるいはフレツレさんとベランダで談笑していたのかも。



### ベランダ？ ところで本当に

神谷別荘の一階は本当にベランダなのでしょうか？  
単に列柱と壁の間のピロティではないのでしょうか？

建築家の先生方は慎重に、ベランダではなく、ピロティと記載します。  
うくん、建物の正面に堂々とした列柱を並べたこの様子は、どうもベランダという気楽な感じとはちよつと違うかな、とも思います。

でも、ここは裁判所でも銀行でもありません。海岸の気持ちよい風を受ける別荘なのです。しかもこの洋館は本館ですらない、本館（現在ギャラリー・いなげになっている場所にあった和風のお屋敷）に付属する、庭の中の応接間（ファストハウス）です。来客は主人に導かれながら、左手の本館から、左に隠れている石段を登って室内に入ります。しばらく1階の洋間で会食、やがてこのピロティに出て、庭を見ながら蜂印のワインを飲む、なんて感じじゃないでしょうか。正面に広がる石段は、庭におりるためのもので、玄関を目指す階段ではありません。



だから、たとえベランダとは言わなくても、このピロティは、ベランダとしての役割をもった、気持ちの良い空間だったと思います。  
さて、神谷別荘の「洋館らしさ」は、他にも窓のデザインや外壁のタイル、そして屋根の形とファサード（正面の三角形）にも見られます。

### グラバー邸から半世紀

現存する日本最古の洋館は、文久3年（1863年）に建てられた長崎のグラバー邸です。それから約半世紀たった、1918年に神谷別荘がつくられました。この間に、日本の洋館の歴史は魅力的な試行錯誤を経て、1877年にコンドル先

生を英国から迎えます。先生のもとで辰野金吾らの優秀な建築家が輩出し、明治の末になって、「西洋の建築様式」学習の時代が終わりつつあります。  
神谷別荘は、大正時代ののびやかな雰囲気を感じ、西洋建築の基礎の上に新しい感覚で作られています。工法では、鉄筋コンクリートの採用、デザインでは、アールヌーヴォー（その系統のセセッション）の影響です。それは①ファサード②アルコーブ③鉄製の組み物④換気窓⑤壁面装飾⑥丸窓⑦白色タイルなどにみられます。



### 岡田時太郎？

たびたび名前があがるのが岡田時太郎（1859〜1926）です。辰野金吾博士とは同郷で、辰野事務所の所員であったこともあります。そしてなにより牛久のシャトーカミヤ（1903年）の設計者で、神谷家とのつながりも十分。  
しかし、証明するものが見つかりません。その上、建築史の先生の研究には、「この時代岡田は、大連で活躍しており神谷別荘の設計は不可能」と書かれています。（がつくりー）

ただ、ご子孫の方の話によると、時折日本に帰っていたとも。今後の研究が待たれます。なお、地元稲毛では、フランス人の設計ということも伝わっています（当時の別荘管理人・川島氏の話）。  
重厚なのに軽やかな印象を与える絶妙なデザインの神谷別荘、設計者の豊かな才能と確かな経験を感じますね。（結局、答がなくてすみません）